

# いわき農林ニュース

(ごちそう ふくしま絆づくり運動ニュース)



発行 平成22年11月19日



「とっくり芋赤沼生産部会」  
通常総会が開催されました。

10月4日(月)、いわき市平下高久のいわき新舞子ハイツにおいて、「いわきとっくり芋赤沼生産部会通常総会」が開催されました。

総会では、昨年の販売実績について、降雨不足による乾燥の影響があったものの、出荷量は14.9t(対前年比139%)となり、一昨年と比べ、大幅に増加したことが報告されました。

また、今年の作柄は、夏場の高温乾燥により生育等に影響が出ましたが、生産者からは「猛暑の年は、芋の味が濃い!」との声上がるなど、今後の売り込みに自信を持っているようでした。

部会では、10月18日(月)に目揃え会を行い、品質・形状を揃え、12月上旬の贈答用に向けて出荷の取り組みが行われます。



(目揃え会に望む生産者)



(とっくり芋)

部会では、以前から「環境と共生する農業」を実践しており、今年度には部会員全員がエコファーマーの再認定を受けました。

いわき農林事務所では、共同巡回や施肥設計を行い、栽培技術向上による高品質とっくり芋の生産を支援していくこととしています。



「合戸地区」の竣功式が開催  
されました。

10月10日(日)、いわき市三和町地内において、「経営体育成基盤整備事業合戸地区 竣功式」が開催されました。

式典では、県農林水産部 松浦次長、いわき市 鈴木副市長、三和土地改良区 内藤理事長らにより、記念碑「大地は甦る」(揮毫: 渡辺いわき市長)の除幕が行われ、工事の完成を祝しました。



(記念碑の除幕)

その後、祝賀会では、高梨いわき農林事務所長から工事経過が報告され、引き続き、換地委員及び工事委員に対して知事感謝状が贈呈されました。



(合戸地区全景)

合戸地区は、総事業費2億6,400万円を投じて、平成16~21年度までの6年の工期で、区画整理A=22ha、用水路L=3,648m、排水路L=1,626m、農道L=3,066mの整備を行いました。

今後は、整備された大区画ほ場により、担い手への農地集積が図られ、水稻直播や大豆栽培、女性を中心とした野菜、花き栽培など、先進的な地区として取り組

みの拡大が期待されています。



## 「森林の手入れ体験と収穫祭」を開催

10月17日(日)、いわき市田人町の田人ふれあい館ほかにおいて、田人の山・光あふれる森づくり事業、森林環境税関連施策PR事業「第2回 森林の手入れ体験と田人産の食材を使った収穫祭」を開催しました。

この事業は、森林の持つ水源かん養、地球温暖化防止などの多様な機能を維持向上させるための森林整備の重要性について、森林の手入れ体験を通じて啓蒙するとともに、中山間地域と都市住民との交流を図ることを目的として、全3回の活動を実施するものです。

第2回目となる今回は、応募のあった一般の方30名が参加して、除間伐(※1)、伐倒(※2)体験及び田人産食材による収穫祭を行いました。



(田人の森林で間伐体験)

当日は、午前中に間伐を行った杉林で、事業の目的や森林整備の必要性について研修後、手入れの行き届かないヒノキ林を見学しながら、講師より除間伐の重要性について講義を受け、続いてノコギリを使った除間伐作業を体験しました。

また、第1回目(6月6日)にナメコとヒラタケを植菌したほだ木の観察を行い、参加者は、ほだ木に菌糸がしっかりと根付いた様子に驚いていました。さらに、植林体験を行った森林では、スギの成長の様子を観察して、森林が形成されるまでは、いかに大変であるかを学習しました。

学習後の昼食は、田人産のきのこや食材を使ったきのこ汁が振る舞われ、参加

者は舌鼓を打ちながら、午前中の活動の心地よい疲れを癒していました。

引き続き午後からは、講師が田人産のコンニャクいもを使って加工実演を行った後、参加者は講師の指導を受けながら、初めてのコンニャクづくりを体験し、その出来上がりに満足した様子でした。



(コンニャクづくり体験)

第3回の活動は、11月28日(日)に、除間伐した木の利活用体験及び光の交流会を実施する予定です。

- ※1 目的外の木や形が悪く良木とならない木を切り除くことのほか、優良木の成長を促すために伐採すること。
- ※2 木を切り倒すこと。



## 「田んぼの学校 いなご取り」を実施

10月20日(水)、いわき市立夏井小学校周辺において、稲の害虫となる虫を捕まえることや、秋の自然とふれあうことを目的として「田んぼの学校 いなご取り」を実施しました。

この活動は、夏井小学校の学校行事として、1年生から6年生まで全学年混合により14班に分かれて行いました。

児童たちは、田んぼのあぜ道などを歩きながら、夢中になっていなごを探し、見つけては捕まえ、歓声をあげながら一生懸命に追いかけていました。

また、高学年の児童が下級生にいなごを分けたり、取り方を教えたりといった、混合班ならではの指導の様子も見られました。

約1時間の活動を終え、いなごの重量を計ったところ、440gを捕まえた班が1位となり、合計では約4.8kgが集まりました。この量は過去数年間の最多記録となり、児童たちも満足のいく結果と

なったようです。



(全校児童でいなご取り)

児童たちはいなご取りを通じて、地域の自然の豊かさと、生きものとふれあう楽しさを実感していました。



(1位となった第7班)



## 「優良木材展示会」が開催されました。

10月21日(木)、いわき市内郷の榊平木材市場において、「第49回福島県優良木材展示会」が開催されました。

この展示会は、福島県木材協同組合連合会と榊平木材市場の共催により、福島県産材の優秀性を広く紹介すると共に、木材の需要拡大、木材業界の一層の結束と協調を図ることを目的として、毎年秋の需要期に行われ、福島県産材のPR並びに需要促進に役立てられています。

記念式典には、木材関係者、関係機関など約120名が出席し、来賓を代表して県農林水産部長(代理)が、県産材の供給を通じて、林業・木材産業の振興を図るなどの貢献に対して、謝意を述べました。

同展示会には、スギやヒノキ、ケヤキ等の優良な素材、製品が通常の約2倍の量にあたる素材2,500m<sup>3</sup>、製品1,500m<sup>3</sup>が入荷し、活気に満ちた競り売りにより、高値で取引されました。



(展示会での木材販売)



## 「農林水産業体験ツアー」を実施

10月23日(土)、いわき市四倉町ほかにおいて、いわき農林事務所の主催による『「森林(もり)・大地・海」の恵みを探検!! いわき地方農林水産業体験ツアー』を実施しました。

県では、『みんなが主役。「絆」がつくる“ごちそうふくしま”』をスローガンに、農林水産業と食、緑、環境、暮らしをつなぎ、みんなで農林水産業を支え合う「ごちそうふくしま絆づくり運動」を全県的に展開しています。

この体験ツアーは「絆づくり運動」の一環として、次代を担う子どもたちへ、農林水産業に対する意識の醸成を図るため、一般公募した小学生22名と保護者17名の計39名を対象として、いわき地方の農林水産物の学習や収穫体験を実施したものです。

はじめに四倉町の(有)とまとランドいわきで、トマト栽培の説明を受け、その後、中玉トマトの収穫を体験したほか、試食も行いました。参加者は、赤や黄色に実った取り立てトマトを口に入れては、その甘さに驚いた様子でした。



(とまとランドいわきでの学習)

次に、道の駅よつくら港で、農林水産物の仕入れ状況などの説明を受け、商品の展示や販売の状況を学習しました。

道の駅の直売所には多種多様な農林水産物や加工品が陳列され、参加者は実際に商品を手に取り、新鮮な農林水産物を実感していました。

次に、渡辺町の農事組合法人いわき菌床椎茸組合で、菌床しいたけの栽培方法を工程順に説明を受けた後、しいたけの収穫を体験しました。収穫したしいたけは、直ぐに天ぷらにして試食しましたが、しいたけが苦手な子どもたちも、取り立てしいたけの甘さと歯ごたえに「おいしい」と感想を述べていました。



(いわき菌床椎茸組合での学習)

最後に、小名浜の子ども漁業博物館「アクアマリンうおのぞき」で、鰹節削りや塩づくり、伝馬船の操船などを体験したほか、漁業展示品を見学しました。

子どもたちは、真剣な眼差しで漁業のミニ体験に取り組み、小さな成果品を手にしなが、皆満足した様子でした。



(アクアマリンうおのぞきで塩づくり体験)

この体験ツアーを終え、小学生や保護者からは、「農林水産物について理解を深めることができた。」「もっと農林水産業に関する体験がしたい。」などの声が多く聞かれ、いわき地方の農林水産業に対する理解の深まりが感じられました。



(体験ツアーの参加者)



## 「大収穫祭」が実施されました。

10月23日(土)、24日(日)の2日間、いわき市小名浜のいわき・ら・ら・ミュウにおいて「いわき・ら・ら・ミュウ大収穫祭」が開催されました。

この収穫祭には、いわき農業青年クラブ連絡協議会が出店し、会員が栽培したいわき産農産物の販売を行いました。

両日とも好天に恵まれ、多くの消費者が訪れる中、一般参加によるもちつき体験を行い、消費者と会員のふれあう収穫祭となりました。

つきたてのモチは、消費者などに振る舞われ、皆おいしそうに食べていました。



(臼と杵を使ってもちつき体験)

また、会員が栽培したナメコ、トマト等の野菜や有機カボチャ、有機米等の有機農産物の販売も行われ、こちらも消費者から大好評でした。

今回の「いわき・ら・ら・ミュウ大収穫祭」への出店参加により、いわき農業青年クラブ連絡協議会の活動内容及び、いわき産農産物の消費拡大について、消費者に向けたPRを図ることができました。



## 「第2回6次化ネットワーク」を開催

10月26日(火)、県いわき合同庁舎において、いわき地域産業6次化運営会議(事務局:いわき農林事務所・いわき地方振興局・水産事務所)の主催により「第2回いわき地域産業6次化ネットワーク」を開催しました。

このネットワークは、いわき地方の温暖な気候、潮目の海、豊富な森林資源などから生み出される豊かな農林水産物を

基盤として、農・商・工が連携・融合することにより、新たな地域産業の創出を図る「地域産業6次化」を促進することが目的です。

第2回目となる今回は、高梨いわき農林事務所長の挨拶に続いて、交流会と様々な相談に対応する個別相談会を行いました。農林漁業関係者や商工業関係者など多数の参加があり、地域産業6次化への関心の高さをうかがわせました。

交流会では、「加工・商品開発」と「マーケティング・ブランド化」の二つのテーマを設け、まず、「加工・商品開発」について県立磐城農業高等学校食品流通科 坂井 聖治科長と県産品加工支援センター 高野 剛主任研究員、次に「マーケティング・ブランド化」については、古滝屋 鴻野 春典部長と県農産物安全流通課 佐藤 周主任主査が事例発表を行いました。引き続き発表された事例を基に茨城大学農学部 塩 光輝教授を座長として意見交換を行いました。参加者

からは様々な質問や意見が出され、活発な意見交換が行われました。

交流会後の個別相談会では、相談を希望された方に対して、「6次産業化アドバイスチーム」が丁寧に相談に応じていました。

なお、次回のいわき地域産業6次化ネットワークは、11月29日(月)に会津若松市などへの先進地視察を予定していますので、皆様の積極的な参加をお待ちしています。



(第2回6次化ネットワーク 交流会)

## いわき農林事務所からのお知らせ

- ◎「有機生産者交流会」  
日時：11月19日(金) 13:00～16:00 会場：泉公民館
- ◎「いわき地方園芸振興セミナー」  
日時：11月24日(水) 13:00～17:15 会場：いわき新舞子ハイツ
- ◎「いわき方部土地改良区職員研修会」  
日時：11月25日(木) 15:00～ 会場：いわき新舞子ハイツ
- ◎「田んぼの学校」収穫祭  
日時：11月27日(土) 時間未定 会場：いわき市立夏井小学校
- ◎「田人の山・光あふれる森づくり事業」  
日時：11月28日(日) 9:30～16:45 会場：田人支所周辺ほか
- ◎「いわき地域産業6次化ネットワーク」先進地視察  
日時：11月29日(月) 8:30～17:00 会場：県産品加工支援センターほか
- ◎「第13回鉢花品評会」  
日時：11月30日(火) 10:00～12月1日(水)まで 会場：いわき市中央卸売市場
- ◎「福島県国際農友会・福島県青年農業士会全体研修会」(講演会)  
日時：11月30日(火) 13:30～12月1日(水) 16:30 会場：みさきプレステージリゾート
- ◎「第4回農業ふれあい講座(収穫祭)」  
日時：12月4日(土) 10:00～14:00 会場：高久公民館

※11月4日 米価下落に伴う相談窓口(農業振興普及部内)を設置しましたのでお知らせします。

◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。

福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課

〒970-8026 いわき市平字梅本15番地 Tel (0246)24-6152 Fax (0246)24-6196

URL <http://www.pref.fukushima.jp/norin-iwaki/>

E-Mail [iwaki.nourin@pref.fukushima.jp](mailto:iwaki.nourin@pref.fukushima.jp)



[iwaki.nourin@pref.fukushima.jp](mailto:iwaki.nourin@pref.fukushima.jp)